

下水道事業を問う！

25年度一般会計決算 産業建設常任委員会 川口の質疑より

上下水道事業は、経営収支が明らかになるように一般会計とは別に「上下水道企業会計」を設け、効率的な事業運営を図るため、独立採算の原則に基づいて事業運営を行なっています。事業の経理内容は「**収益的収支**」(管理運営に関するもの)と「**資本的収支**」(施設の建設に関するもの)とに分かれています。

下水施設の建設に関する資本的収支は、毎年度支出が収入を上回り、不足分を企業債と内部留保で補填する状況が続いています。今回の質疑では、25年度現在の会計状況を確認しました。

内部留保資金 14.8億円 … 貯金

企業債残高 197.6億円 … 借金

将来施設の更新費用が増える



考えられる資金源

- ・ 川越市一般会計からの補助金・負担金
- ・ 下水道使用料 ・ 国からの補助金
- ・ 受益者負担金 ・ 企業債

答弁では、借金をしてでも必要なものはつくるとのことでしたが、考えられる資金源は直接的か間接的かの違いはあれ、使用者の負担増になるものばかりです。何が必要なのかを考え、**まちづくりそのものから考える必要がある**と私は考えます。



川口けいすけの一般質問 市職員の勤務状況等についてより

詳細は川口けいすけ議会報告会にて



市役所に電話してイライラ

市職員の対応にイライラ



こんな思いをしたことはありませんか？

新人は1年間にマナー研修を4回も受講

市では、新年度採用職員に対し、ビジネスマナー研修として「なぜ必要なのか」を基本に、挨拶や返事の重要性、言葉の使い方、電話対応、来客対応マナーなど年4回の研修を行い、さらに、主事、副主任、主任への昇任時も同様の研修を行っています。

にもかかわらず、電話や窓口での対応でなぜ多くの市民が不快に感じるようになるのでしょうか。

電話ではたらい回しにされたあげく、用件を何度も言わされ、名前を名乗ることもない。さらに、相手

電話や窓口対応マニュアルの作成を提言

によって態度を変えるという指摘も少なくありません。

多くの市民は、市職員とやり取りする機会は生涯で数回程度でしょう。その時の対応で不快な思いをすれば、「川越の役人は・・・」「川越市は・・・」と全体がマイナスの評価をされることとなります。

今回の一般質問では、マニュアル作成だけでなく、日々の職務において職員同士確認しあう職場環境が必要と指摘し、市もその必要性を認め、マニュアルづくりも検討していきたいと答えました。



職員間のセクハラ・パワハラ・いじめについて

約10%の職員がセクハラを受けたと回答！



パワハラ実態調査を提言

平成20年に全職員に対し、セクハラについての意識調査を行っており、その結果約10%の職員がセクハラを受けたと回答していました。そして、詳細を見ると、その多くがパワーハラスメント(職場の権力を利用した嫌がらせ)であり、自由記入欄には、「パワハラの調査を行ってほしい」との要望も出ていました。まずはパワハラの実態を調査し、現状を把握した

組織のリスクマネジメントの問題だと指摘

上で対策をつくる必要があると提言しました。

ハラスメント問題は、人間関係の悪化やモチベーションの低下が生産性の低下を招き、組織全体のイメージの悪化、訴訟になれば、時間的・経済的損失にもつながります。問題解決への取り組みは、当事者個々の問題ではなく、**組織にダメージを与えかねないリスクマネジメントの問題と認識すべき**と指摘しました。

